



百石踊りの様子。現在では、西戸百石踊保存会により、毎年4月29日に奉納されている。また、昭和47(1972)年に、県の無形民俗文化財に指定された。

農業用水の不足による人々の渴望は、旱魃時に最後の望みを託して奉納されたという雨乞い踊り「百石踊」

東条地域では、「母なる川」

溜池ラッシュ

水を得るために

水が与えた文化への影響

記録が残っている。

旧加東郡域は、雨量の少なさや、丘陵台地の多さから、農業の生命線ともいえる農業用水が不足しがちであった。このような状況は、文化に大きな影響を与えただけでなく、人々に血の滲むような努力を強いた。

や、東条川の川底の岩を祀ったという吉井住吉神社の「竜神岩」などの信仰を産み出した。特に、百石踊に関しては、1か月も炎天が続き、降水量が極めて少なかった嘉永6(1853)年に奉納したところ、大雨や夕立が続くようになり、稲田が甦ったという記録が残っている。



Story of Water

母のなかにいる私たちを包み込んだ
太古、「生命」の誕生に大きく寄与した
「万物の根源である」という哲学者もいる
人々の求める気持ちが、技術の、文化の発展を生み出した
形も、色も無いけれど、私たちの存在には欠かせない
それが水

歴史に残る水滴を線にすれば、
人間の文化、技術の成り立ちが見えてくる

用水政策の産声

ど、あらゆる場所の水が干上がった。これ以上の猶予はできないと判断した松沢村は、溜池の築造に取り掛かった。築造工事は、安政3(1856)年に着工し、2年後の安政5(1858)年に竣工。溜池は、竣工した元号をとり、安政池となった。以後、他村で旱魃が起こった年でも、受益地である松沢村は豊作であったと伝えられている。

明治維新後も農業用水が不足している状況は変わらず、農業用水は、慢性的に不足していた。分散的な開発は行われていたが、根本的な解決には至らなかった。しかし、明治16(1883)年、大正13(1924)年の大旱魃が人々の意識を大きく変え、用水政策の本格化の契機となった。

大正末期、旧市場村(現小野市市場町)村長の近藤準吉氏が播州清水寺を参詣した



現在の安政池

アースダム…主に土を用い、台形状に形成して建設するダム